佳作

人力車にのったこと

茨城県　日立市立櫛形小学校二年　皆川　千絵

夏休みに入ってすぐに石川けん金ざわしに家ぞくりょ行に行きました。上のえきまでじょうばん線にのって、そこから北りく新かん線にのりました。

金ざわでは、はじめて人力車にのりました。人力車は大きな車りんが二つあって、その間に二人がすわれるいすがついていて、やねもついていました。わたしの家ぞくは四人家ぞくなので、おとうさんとおにいちゃん、おかあさんとわたしの二人組でのりました。

一だいの人力車を、一人の車ふさんがひきます。わたしの人力車をひいてくれた車ふさんは、りなさんというおねえさんでした。元気いっぱいのおねえさんで、わたしとおかあさんがのった人力車をスイスイひっぱってくれました。どうろをはしったあとに、川の方のほそいみちに入りました。

川の前で人力車をとめて、

「この川は女の人みたいにきれいだから女川とよばれています。この川でむかしの人は、きものをおせんたくしていたんだよ。それを友ぜんながしと言います。お水がよごれてしまうので今はもうやっていないけれどかわりにこいのぼりを川におよがせる、こいながしを五月にやっているんだよ。」

と、教えてくれました。川でおせんたくをするなんてももたろうのお話みたいだなと思いました。

そのほかにも、石川けんは雨の日がとても多いからさくらの木にコケがたくさん生えて木のみきがみどり色になっていることや、げんかんの上にとうもろこしのおまもりがかざられている家があることを人力車をひきながら教えてくれました。

おねえさんは金ざわのことをしらない人にどんなところなのかをたのしく教えてくれました。しかも、とても力もちで足にきんにくがすごくついていました。おもたくないのかな、たいへんじゃないのかなと思ったけれど、おねえさんは、さいごまでずっとえがおでした。外国から来た人には、えい語で話していました。

力もちで、やさしくて、えがおがかわいいりなおねえさんが大すきになりました。わたしもえい語をならっているので、いつか、人力車をひきながらせかい中の人にじ分のくらしている日立をあんないしたいと思いました。